

研 究 業 績

著 書

- (1) 中河伸俊 (2021). 黒い蛇はどこへ：名曲の歌詞から入るブルースの世界. トゥーヴァージンズ.
- (2) 中河伸俊, 渡辺克典 (編著) (2015). 触発するゴフマン：やりとりの秩序の社会学. 新曜社.
- (3) 中河伸俊, 赤川学 (編著) (2013). 方法としての構築主義. 勁草書房.
- (4) 中河伸俊 (2011). 構築主義：M.B.スペクター／J.I.キッセ『社会問題の構築』. 井上俊, 伊藤公雄 (編). 社会学ベーシックス別巻：社会学的思考. 世界思想社 2011.
- (5) 中河伸俊, 平英美 (編著) (2006). 新版 構築主義の社会学：実在論争を超えて. 世界思想社.
- (6) 中河伸俊 (2006). 構築主義と言説分析. 佐藤俊樹, 友枝敏雄 (編), 言説分析の可能性：社会学的方法の迷宮から. 東信堂.
- (7) 中河伸俊 (2005). 逸脱のカテゴリー化とコントロール. 宝月誠, 進藤雄三 (編). 社会的コントロールの現在. 世界思想社.
- (8) 中河伸俊 (2005). 「どのように」と「なに」の往還：エンピリカルな構築主義への招待. 盛山和夫, 土場学, 野宮大志郎, 織田輝哉 (編). <社会>への知／現代社会学の理論と方法 (下)：経験知の現在. 勁草書房.
- (9) 中河伸俊, 山本功 (2004). 社会病理のミクロ分析. 松下武志, 米川茂信, 宝月誠 (編著). 社会病理学講座 第1巻 社会病理学の基礎理論. 学文社.
- (10) 中河伸俊, 北澤毅, 土井隆義 (編著) (2001). 社会構築主義のスペクトラム—パースペクティブの現在と可能性. ナカニシヤ出版.
- (11) 中河伸俊, 平英美 (編著) (2000). 構築主義の社会学：議論と論争のエスノグラフィー. 世界思想社.
- (12) 中河伸俊 (2000). 逸脱行為. 碓井崧, 丸山哲央, 大野道邦, 橋本和幸 (編). 社会学の理論. 有斐閣.
- (13) 中河伸俊 (1999). 社会問題の社会学：構築主義アプローチの新展開. 世界思想社.
- (14) 中河伸俊 (1998). レイベリングからトラブルの自然史へ：逸脱と社会問題の研究へのエスノメソドロジーの影響. 山田富秋, 好井裕明 (編). エスノメソドロジーの想像力. せりか書房.
- (15) 中河伸俊 (1998). 悩む：個人の悩みと社会問題. 伊藤公雄, 牟田和恵 (編). ジェンダーで学ぶ社会学. 世界思想社.
- (16) 中河伸俊 (1995). 構成主義の感情論. 船津衛, 宝月誠 (編著). シンボリック相互作用論の世界. 恒星社厚生閣.

- (17) 中河伸俊, 永井良和 (編著) (1993). 子どもというレトリック: 無垢の誘惑. 青弓社.
- (18) 中河伸俊 (1991). 音楽世代論. 仲村祥一 (編). 現代的自己の社会学. 世界思想社.
- (19) 中河伸俊 (1990). サブカルチャー音楽と文化のオートノミー. 柏木博, 小倉利丸 (編著). イメージとしての〈帝国主義〉. 青弓社.
- (20) 中河伸俊 (1989). 男の鎧: 男性性の社会学. 渡辺恒夫 (編). 男性学の挑戦: Yの悲劇?. 新曜社.
- (21) 中河伸俊 (1987). 青少年非行. 四方壽一 (編). 危機に立つ家族. ミネルヴァ書房.
- (22) 中河伸俊 (1986). 自殺の社会的意味. 仲村祥一 (編). 社会病理学を学ぶ人のために. 世界思想社.

翻 訳

- (1) フランシス, D., S・ヘスター (著), 中河伸俊, 岡田光弘, 是永論, 小宮友根 (共訳) (2014). エスノメソドロジーへの招待: 言語・社会・相互行為. ナカニシヤ出版.
- (2) マーゴリン, L. (著), 中河伸俊, 上野加代子, 足立佳美 (共訳) (2003). ソーシャルワークの社会的構築: 優しさの名のもとに. 明石書店.
- (3) ヘイルバット, A. (著) 中河伸俊, 三木草子, 山田裕康 (共訳) (2000). ゴスペル・サウンド. ブルース・インターアクションズ.
- (4) グブリアム, J・F, J・A・ホルスタイン (著), 中河伸俊, 湯川純幸, 鮎川潤 (共訳) (1997). 家族とは何か: その言説と現実. 新曜社.
- (5) トロイヤー, R.J., G・E・マークル (著), 中河伸俊, 鮎川潤 (共訳) (1992). タバコ社会学: 紫煙をめぐる攻防戦. 世界思想社.
- (6) スペクター, M., J・I・キツセ (著), 村上直之, 中河伸俊, 鮎川潤, 森俊太 (訳) (1990). 社会問題の構築: ラベリング理論をこえて. マルジュ社.

学術論文 (査読あり)

- (1) 中河伸俊 (2016). 談話標識としての笑いと「お笑い」: フレーム分析実用のための試行的検討. 同志社社会学研究, 20, 1-17.
- (2) 中河伸俊 (2010). ドロシー・スミスの制度のエスノグラフィーと臨床社会学. 現代の社会病理, 25, 41-55.
- (3) 中河伸俊 (2004). 構築主義とエンピリカル・リサーチャビリティ. 社会学評論, 219, 244-259.
- (4) 中河伸俊 (2003). 「翻訳」と法的現実のモザイク: クレーム申し立てアプローチの立場から. 法社会学, 58, 79-97.
- (5) 中河伸俊 (2001). 方法論のジャングルを越えて: 構築主義的な質的研究の可能性. 理論と方法, 29, 31-46.

- (6) Nobutoshi Nakagawa (1995). Social Constructionism in Japan: Toward an Indigenous Empirical Inquiry. *Perspectives on Social Problems*, 7, 295-310.
- (7) 中河伸俊 (1995). 「有害マンガ」と社会問題のレトリック. 現代の社会病理 IX, 117-150.
- (8) 中河伸俊 (1994). クレーム申し立てと法形成: 構築主義社会問題論の可能性. 法社会学, 46, 199-203.
- (9) 中河伸俊 (1984). 逸脱行動と産業社会のジレンマ: 構造的ストレイン論再構成のための試論. ソシオロジ, 89, 1-22.
- (10) 中河伸俊 (1982). 婦人一時保護施設入所者の経歴分析: 売春経験をもつ入所者の諸経歴の特徴. ソシオロジ, 84, 89-113.
- (11) 中河伸俊 (1981). 準拠集団と逸脱行動の統制理論. 犯罪社会学研究, 6, 100-121.

学術論文 (査読なし)

- (1) 中河伸俊 (2010). 「自己」への相互行為論的アプローチ: 経験的探究に有効な再定式化のために. 大阪府立大学人文学論集, 28, 45-71.
- (2) 中河伸俊 (2004). [書評論文] クリスティーン・ヤノ著『思慕の涙: 日本のポピュラー音楽におけるノスタルジーとネーション—』. ポピュラー音楽研究, 7, 52-61.
- (3) 中河伸俊 (1996). 逸脱・社会問題研究における公式統計の使用について. 奈良女子大学社会学論集, 3, 49-62.
- (4) 中河伸俊 (1995). 「天皇表現」をめぐる三者関係型過程: 「T県立近代美術館問題」の構築主義的考察. 富山大学人文学部紀要, 23, 33-58.
- (5) 中河伸俊 (1993). 社会問題ゲームと研究者のゲーム: 「社会問題」と「逸脱」へのコンストラクショニスト・アプローチの諸課題. 富山大学教養部紀要 (人文・社会科学篇), 25-2, 57-81.
- (6) 中河伸俊 (1991). アメリカでのコンストラクショニスト・アプローチによる犯罪・刑事司法過程・社会問題研究. 犯罪社会学研究, 16, 152-157.
- (7) 中河伸俊 (1991). 社会問題の社会学は存在したか: 細井論文へのコメント. 現代の社会病理, VI, 48-57.
- (8) 中河伸俊 (1991). クレーム申し立ての社会学: 構築主義の社会問題論の構成と展開 (2)]. 富山大学教養部紀要 (人文・社会科学篇), 23-2, 49-79.
- (9) 中河伸俊 (1990). クレーム申し立ての社会学: 構築主義の社会問題論の構成と展開 (1)]. 富山大学教養部紀要 (人文・社会科学篇), 22-2, 57-73.
- (10) 中河伸俊 (1989). テリン・イット・ライク・イット・イズ: 黒人大衆音楽の歌の世界についての一試論. 黒人研究, 59, 19-24.
- (11) 中河伸俊 (1988). 感情, フレーム, 構造化されたゲーム: 逸脱研究における構造的ストレイン論のミクロの基礎づけをめぐる. 富山大学教養部紀要 (人文・社会科学篇),

20-2, 111-168.

- (12) 中河伸俊 (1988). ドリフティン・ブルーズ:「大衆音楽」論の落とし穴. クリテティーク, 11, 88-97.
- (13) 中河伸俊 (1986). 「脱エロス化」からアンドロジナスの回復へ: 渡辺恒夫『脱男性の時代』をめぐって. クリテティーク, 5, 81-88.
- (14) 中河伸俊 (1980). 宗教的活動と意識. 研究報告 鳥取県における一漁村の変容: 1961年調査との比較において (京都大学文学部社会学研究室), 117-128.

その他

- (1) 中河伸俊 (2018). アーヴィング・ゴフマンと社会調査. 社会と調査, 21, 105.
- (2) 中河伸俊 (2010). 「社会構築主義—バーガー, グブリアム, ハッキング他」および「社会問題の社会的構築」の項目. 社会学事典. 丸善株式会社.
- (3) 中河伸俊 (2002). 「ロック」「ソウル」「ジャズ」「レゲエ (ラスタファリアニズム)」の項目. 岩波キリスト教辞典. 岩波書店.
- (4) 中河伸俊 (2002). 「シンボリック相互作用論」「可視性」の項目. 情報学事典. 弘文堂.
- (5) 中河伸俊 (2000). 「シンボリック相互作用論」「レイベリング」の項目. 政治学事典. 弘文堂.
- (6) 中河伸俊 (1998). スペクター, キツセ『社会問題の構築』. 社会学文献事典. 弘文堂.
- (7) 中河伸俊 (1992). 「アノミー」「逸脱行動」「自殺」の項目. 全訂版 社会学用語辞典. 学文社.

